意見交換会実施報告書

開催日時	平成24年12月4日 午後7時00分 ~ 午後8時00分	
開催場所	南方公民館 2階研修室	
出席議員	代表者 田口 政信 司会者 二階堂 一男 報告者 伊藤 栄 記録者 遠藤 音、 沼倉 利光、 佐藤 恵喜	
参加市民数	18人	
実施内容報告	議会報告	議会・議員活動の在り方と議員定数の見直しについて、意見交換会説明資料に沿って議会・議員活動の現状と議会改革推進会議でのこれまでの協議内容の報告、説明を行う。
	意見交換	<p>(議員定数について)</p> <p>Q 会派・議員で定数に対する考えがそれぞれ違うが会派別に示している根拠は。</p> <p>A (各会派の考えを説明しました)。</p> <p>Q 私たち市民に意見を求める前に、議会として統一した考えを議論して持ってくるべきでは。</p> <p>A 議会の中で議論するための参考として基本条例で規定したように、広く市民の意見を聴取して、市民の意見も参考にしながら議会として最終的な判断をすることとしています。</p> <p>Q 旧町域ごとの選挙区制代表の議員選挙は出来ないのか。</p> <p>A 今の選挙制度では、政令都市以外は出来ません。</p> <p>○ 隣の町がどうかの比較でなく登米市議会、議員がこれからどのような活動を目指すのかを基本に定数を決めるべき。</p> <p>○ 定数問題は次の選挙前に結論を出してもらいたい。</p> <p>(その他の事項)</p> <p>Q 9月の定例会で23年度の公民館の主催事業で米谷公民館が114回、南方公民館が14回と開きがあり、活動がおもわしくない管理者には助言すべきとの質問があり、部局で精査し、対応すると回答していたが、1、各教育事務所で統計のとり方に統一性は図られていたのか。2、精査した結果の報告はどのようになっているのか。3、統計の取り方に統一性がなかったとしたら今後の対応は。これらを書面、広報等で知らせてほしい。</p> <p>A 持ち帰り対応することとし、訂正しなければならないものがあれば、議会報で知らせることとします。</p> <p>Q 議会基本条例は作ったがその通り活動していないのでは。報告会で迫会場でも10名程度の参加だった。6月の報告会でも全体で100名程度。つまり、市民は議員を信頼していないし、なにも期待していないということではない</p>

		<p>か。議員が日頃から地域に入り活動していれば、今回の意見交換会にも多くの市民が参加したのではないのか。</p> <p>A 議会基本条例を制定したのは、制定することが目的ではなく、まさに市民から信頼され、期待される議員、議会になっていくため作ったものであり、作れば終わりではなく、今その活動のスタートを切ったところです。</p> <p>Q 災害復旧に何年かかるのか。議員がいる地域の復旧は早く進められると聞くが本当か。</p> <p>A 出来るだけ早期復旧できるよう、執行部、議会ともども行動していきます。</p> <p>Q 防災計画の見直しは、どのような見直しをしているのか、原発事故を想定して検討しているのか。また公共施設適正化配置計画の委員会は動いているのか。</p> <p>A 防災計画については原発事故を想定した見直しを行っていますが、議会にはまだ示されていません。(12月中に提示)</p>
要望・提言等		<ul style="list-style-type: none"> ○ 指定管理制度の受ける側の資質の向上を求める発言が議会であったが資質の向上のための接遇、処遇の問題なども、議決機関としての議会としては十分精査してから議決してもらいたい。更に議員定数を問題にする前に、現場に出向いて何が問題なのかを充分調査することこそ必要では。 ○ 議員、議会には机の上での議論でなく、自らの足で現場に出向き、活動する事こそが求められている。 ○ 太陽光発電を推進するためにも農地の転用の事務手続きの簡素化を図ることを考えては。 ○ 5年後に宮城県で開催される、全国和牛共進会に対する何らかのアクションを起こしてもらいたい。 ○ 市民目線で活動するのであれば、災害時等に議会がすぐに開催し、活動できる通年議会を進めてもらいたい。
その他 特記事項		<p>この会場での意見を集約すれば、定数の削減という、一元的な議論に終始するのではなく、登米市議会及び議員が多くの市民に信頼され、期待されるような活動をどう展開していくのか、そのためには議員の定数、報酬どうあるべきかという観点で議会は議論し、行動してもらいたいという意思が感じられた意見交換会だった。</p>